

する部落。

コメマチガハ 米町川 一冊。カクミガハ 神代川。

コメマチダキ 米町瀧 一冊。羽昨那米町に在つて、高さ一二米、米町川に注ぐ。瀧壺に二體の不動尊があり、こゝにて捕へる八目鰻は薬用として賞用せられる。

コメヤゴヘ 米屋五兵衛 ↓コイケヨラク 小池余樂。

コメヤマジヨウ 米山城 鳳至郡國光の米山にあつた。古城考に柳田古城といふのは是で、柳田と國光とは隣邑である。城主の名は明らかでない。

コモザハ 菰澤 鳳至郡西大野の内の小字。

コモジシシユウ 鷹獅子集 一冊。巴水著。住吉宮に奉納するが爲に集めた諸國俳人の句集と見える。書中に元祿西冬日加陽巴水とあるから、六年の作である。江戸では芭蕉・曾良・露沾・其角、加賀では句空・松・三十六等の句があり、跋には諸國俳諧勸進路通とある。京井簡屋庄兵衛板。

コモノ 小者 武家の一季居奉公人であり、享保の頃では役小者・鎧持・馬捕・乗物かき・草履取・平小者・あらしこに分かたれてゐた。あらしこは荒子で、特殊の任務が定まらぬ最も下級のものである。小者は士郎の門側にある長屋に住し、門の開閉、庭園の掃除等にも當つた。小者の藩侯に屬するものは陸尺・三十人・馬捕・御長柄小者・御小人に別れ、その外各役所に小遣小者・掃除小者があつた。藩の小者は、普通十五俵の切米を與へられた。公式の際に脇指一刀を帯びるだけであり、徒跣

で、雨天には赤合羽を用ひた。唯藩臣中本多氏のみは青合羽を用ひる例であつた。

コモノナリ 小物成 田租以外藩の徴収する雑税を小物成といふ。小物成は郡方一般に課せられ、定小物成・散小物成に分かたれる。定小物成は御印役ともいうて、寛文十年前田綱紀の時興へた村御印と稱する納税決定書に税目と税額とを記載したもので、十村の見圖によつて出す如く定めてはあつたが、容易に變更を許さなかつた。散小物成は散役又は浮役ともいひ、時々創業するも廢業するもあつて、十村等の考査に基づき變動する。散小物成は定小物成の定つた後に増加したもので、税目は定小物成と同一のものであるが、税額は村御印の範圍以外に屬するのである。市部で徴収する商工業の運上銀・莫加銀も亦その性質上散小物成の一種である。その税目は左の如くである。

定小物成
山 役 苦竹 役 茅野 役
野 役 湖 役 地子 役
板舟權役 油 役 漆 役
鳥 役 湯 役 鮭 役
紺屋 役 室 役 壘 役
外海引綱役 鹽 役 獵船權役
外海船權役 網 役 澗 役
尻巻網役 傳馬 役 川原 役
烏賊 役 蠟 役 綿 役
炭 役 草野 役 湖邊舟役
湖網 役 鯉 役 六歩口錢
其 他 散小物成

渡海船權役 漁船權役 小舟 役

牧木通船役 他領も借船役 澗 役
引綱 役 起綱 役 尻巻網役
湖網網役 鯉網 役 網網 役
鮪網 役 あめ鮪役 白鮪 役
鰻 役 江豚筋製法役 烏賊 役
鱈 役 刺鯖 役 川原 役
鮭 役 川 役 釣 役
蒲 役 鳥 役 室 役
油振賣 役 質屋 役 豆腐 役
紺屋 役 賣藥 役 藥種 役
藥草土洗 役 合藥 役 請酒 役
蠟燭 役 遣蠟 役 鍛冶 役
油 役 綿 役 漆搔 役
瓦焼 役 陶器 役 索麩 役
古手 役 炭竈 役 傳馬 役
地子 役 其 他

コモヒトへ 菰一重 一冊。金澤の俳人既白著。寶曆九年金澤を出で、越中・飛騨・信濃・越後・出羽・陸奥・江戸・上野を吟行して、一章の發句を集めたもの。序は東都千鳥橋隱士蓼太、跋は輕素。題號は芭蕉の句『何人か菰著ておはすはなのほる』を巻頭においたに よる。板元不明。

コモリジヨウ 小森城 江沼郡永井に在つた。江沼志稿に、橋村から越前へ行く道の右で、小森山といひ、小森某の居城と傳へて、障・土居の形が今猶存して居るとある。

コモリヅキ 籠月 河北郡笠野郷に屬する部落。

コモリヨスケ 小森與助 前田利家に仕へて、祿三百二十石に至つた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ゴモンゼンマチ 御門前町 ↓マツバラチ

ヨウ 松原町。
ゴモンチヨウ 御紋蝶 白山の御前岳附近なる石間に棲息する。大き蠶蛾に似、兩翅背上に展びて淡黒、金色の小點數個あるの狀、前田氏の家紋に類するが故に名づける。

コヤジマ 小屋島 ↓オホシマ 大島(鳳至)。
コヤスジンジャ 兒安神社 金澤大樋町の産土神で、或は泰産社と稱し、俗に子安觀音と呼ぶ。其の來歴は詳かでない。

コヤナギチヨウ 小柳町 金澤野町三丁目の小路をいふ。町名の由來は昔此の邊が荒地であつた頃、柳木があつた故であらうといふが、明らかでない。居住者の氏名でもあるまいか。

コヤマ 小山 羽昨那笹田の内の小字。
コヤマ 小山 鳳至郡阿岸郷に屬する部落。能登名跡志に『小山村といふに、高右近といひて、利家公の御墨付・御扶持戴きある百姓あり。』と見え、天正十年利家の印書の宛所に『あ岸中村高うこかたへ』とあり、慶安三年の書にも又中村高右近とあるから、小山は當時中村と言はれたのである。しかし享保九年のものには小山村高右近になつてゐる。

コヤマダ 小山田 能美郡粟津郷に屬する部落。
コヤマノタカウコ 小山の高右近 ↓タカウコ 高右近。

コヤマリヨウザエモン 小山長左衛門 加賀藩産物方の興力であつた。慶應元年石川郡坂尻の枝權兵衛が、白山村安久壽ヶ淵から用水路を掘鑿せんとした時、長左衛門その議に與り、明治二年遂に成功を見るに至つた。流

水路を掘鑿せんとした時、長左衛門その議に與り、明治二年遂に成功を見るに至つた。流